

コニカミルタ株式会社

2017 年（平成29 年）3 月期 決算説明会

主な質問と回答

日 時： 2017 年5 月11 日（木） 18:00-19:30

場 所： イイノホール&カンファレンスセンター

<ご留意事項>

「主な質問と回答」は、決算説明会に出席になれなかった方々の便宜のため、参考として掲載しています。説明会でお話したこと全てをそのまま書き起こしたのではなく、当社の判断で簡潔にまとめたものであることをご了承ください。

また、本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があることをご了承ください

2016 年度業績について

Q：4Q 営業利益が下振れていますが、影響を与えた特殊要因の内容を教えてください。

A：欧州の構造改革を前倒しました。これは計画には織り込んでいませんでした。また、先行的な開発費用を積み増しました。対象は Workplace Hub、プロダクションプリントの新製品です。

これらの結果、計画よりも業績は悪化しましたが、17 年度以降のことを考えて行ったということです。

Q：棚卸資産の考え方についてお伺いします。3Q 決算でも少し高いという印象ありましたが、「健全な中身」というお答えでした。今回3月末としては回転月数が高いと思いますので、この考え方と、17 年度に向けた見通しについて教えてください。

A：ご指摘の通り、在庫回転期間が前年対比で大体 0.3 カ月ぐらい上回っています。CCC も前年対比で 0.2 カ月ぐらいい上がっており、在庫の中身は健全ですが、経営上はこの水準は決して満足できていたものではありません。今年度につきましては経営管理としての ROIC を導入するなど、稼ぐ力を強化するために、この 17 年 3 月末の在庫水準 1,360 億円を、その前年度末の 1,200 億円台までの圧縮を目標におき、しっかり管理していきたいと考えております。

2017 年度業績見通しについて

Q：2017 年度業績予想のセグメント別の計画前提について伺います。オフィスは直近までプラスで来ていて 4Q に減収、プロフェッショナルプリントは去年悪くて、今年は多分新製品を見込んでいるのかと理解しましたが、そういう理解で合っているでしょうか？またヘルスケアでの新年度におけるドライバーはどういったものなのか教えてください。

A：オフィス事業の減収には為替の影響がありますが、Workplace Hub の売上の見通しを新規に入れたというのも要因の 1 つとしてはあります。プロフェッショナルプリントについては、新製品を 2017 年度にしっかり寄与させるということです。

加えて KM-1 でのインクジェットを使った本格的な商業印刷へのアプローチ、さらには産業印刷では MGI という提携先の商品拡大も含まれます。

ヘルスケアにつきましては何点ありますが、最も貢献するのが超音波です。日本での整形外科でジャンルトップに加えて、アメリカ、中国での拡販体制が整ってきました。17 年度から売上・利益の貢献度が高まるというのが大きいところであります。それに加えてデジタルの保守サービスの売上のカーブが立ってきたことも、売上増の背景にあります。

Q：営業利益と事業貢献利益の差の内訳を教えてください。

A：2017 年の事業貢献利益 540 億円と営業利益 460 億円の差は約 80 億円ありますが、そのうち構造改革費用が 40 億円強です。新規事業の量産化手前の試作費用が 20 数億円、加えて、固定資産の除売却損が 10 数億円あり、トータルで大体 80 億円を見込んでいます。

Q：計測機器の売上が 4Q で 97 億円と伸びましたが、17 年度の見通しを教えてください。

A：計測事業は非常に好調です。特に事業部本体では、ディスプレイ大手のお客様向けビジネスが順調に伸びています。また、買収したドイツの IS 社でも、米国の大手のお客様へのビジネスが伸びていますので、17 年度 1Q 以降も順調な収益貢献を期待しています。

以上